3.「旧町」たんけん

わたしたちの名張市の中心であった名張地いきは，今では親しみをこめて「旧町」とよばれ，古くからのこるたてものや，みんながり用する，いろいろなしせつなどがあります。

また，近くには，てつ道や大きな道ろも通っています。

「旧町」に行くと出あえるよ

名張川と電車

近鉄名張駅の西口

近鉄名張駅の東口

乱歩のどうぞう

観阿弥のどうぞう

宇流冨志禰神社のさん道

秋まつり

やなせ水ろ（城下川）

1. 名張川

あゆつりの風景

名張川は，夏にはたくさんの「あゆつり」の人たちでにぎわいます。また，７月には新町の川原で花火大会が行われ，夜空にきれいな花をさかせながら，あつまった人たちを楽しませてくれます。

しかし，1959（昭和 34）年におきた「いせわん台風」では，この川の水があふれだし，大きなひがいが出ました。

今では上流に，「青蓮寺ダム」と「比奈知ダム」「室生ダム」の３つのダムがあり，水のりょうをちょうせつしながら，水がいから町をまもってくれています。

花火大会

2. むかしをつたえるもの

(1) はせかい道

初瀬街道の道しるべ

むかし，大和（なら県）から，伊勢神宮へおまいりする人たちが歩いた道で，新町から本町，中町などの町の中を通っています。今も石にきざまれた道しるべがのこっています。

(2) 名張藤堂家邸

え戸時だいのはじめに名張へやってきた，藤堂高吉という人は，今の名張小学校のところ（丸之内）に大きなお屋しきをたてました。その一部が今ものこっています。

名張藤堂家邸

名張の町をおさめた武士がすんでいた，家のようすをつたえる，大せつなたてものです。

高吉は，家来のほかに，ものを作ったり，売ったりする人びとを，いっしょにつれてきてすまわせ，「城下町」として名張の町がさかえるもとをつくりました。

■小2

伝統・文化

(3) やなせ宿

やなせ宿

旧細川邸やなせ宿は，え戸時だいから明じにかけて，なら県にあったくすりのお店，細川しょう店のし店としてたてられた家です。

むかしから，名張川はあゆがたくさんいたところで，あゆをとるための「やな」（木や竹をならべて組んだものを川の中に入れて，あゆをつかまえるしかけ）がたくさんあったことから，名張という地名も，むかしは「やなせ」とよばれていたそうです。

新町にあるこの家は，その「やなせ」という名前をのこし，むかしのように人びとがあつまって，にぎわう場しょになるようにと，「やなせ宿」と名づけられました。

ここでは，「あゆまつり」や「もちつき大会」などの，楽しい行じが行われ，たくさんの人でにぎわいます。

(4) 宇流冨志禰神社

宇流冨志禰神社

むかしから名張のまもりがみとして親しまれているじん社で，「うなねのみこと」という水のかみがまつられています。人びとのしあわせや，米や野さいがたくさんとれることをねがって，毎年いろいろなおまつりが行われます。

なかでも，秋まつりは町じゅうから，みこしやだんじり，ししまいなどがでて，たくさんの人や出店でにぎわいます。

中町に「一の鳥居」があります。ここから上本町をとおる道が，じん社へおまいりする道になっていて，両がわにはたくさんのお店がならんでいます。

一の鳥居

乱歩の記ねんひ

(5) 江戸川乱歩

ゆう名な『怪人二十面相』などを書いた，江戸川乱歩という人は，新町で生まれました。そこは，広場になっていて，記ねんひがたてられています。

また，近鉄名張駅の東口には，乱歩のどうぞうがあります。

3．町なかで見つけたよ

ひやわい

やねののきどうしがかさなるような，せまい道があるのを見かけます。名張の方言で「ひやわい」といいます。人が行き来するのにべんりで，よくり用されています。

また，町なかを歩いていると，たくさんの水ろに出あいます。これは，名張川の水をとりこんだ水ろで，「やなせ水ろ」とよばれています。

城下川の花いかだ

町なかをあみの目のようにながれていて、むかしから人びとのくらしに役だってきました。なかでもだいひょうてきな水ろである「城下川」では，５月から６月にかけて，きれいなしょうぶの「花いかだ」がうかびます。

みなさんがすんでいるところには，どんなものがありますか。みんなで，たんけんしてみましょう。人にたずねたり，しらべたりして，わかったことを，みんなに教えてあげましょう。

ひやわん

名張まちなかのキャラクターのひとつ。名張をあいする心をもった人だけが見ることができるといわれているでんせつの犬。

生年月日…1333年7月8日
しん長体じゅう…ひやわいの細さに合わせてふえたりへったりする
出ぼつ場しょ…名張市内かく地のひやわい

【→P34,42,45,47,50,59】